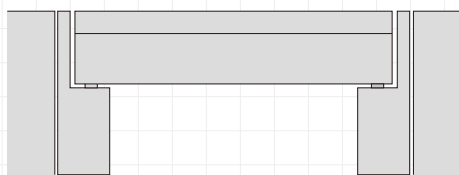


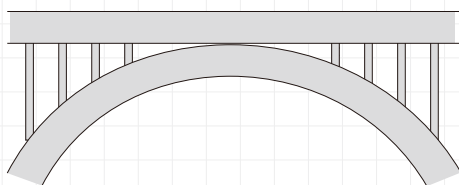
橋のかたち

橋の構造形式は、外観の形状によって分類されます。また、実際に建設されている橋には、さまざまな形状を組み合わせたものもあります。



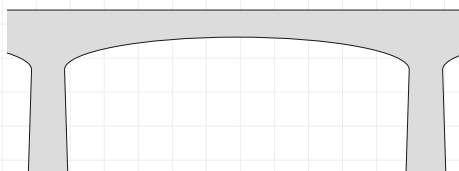
● 桁橋 (→本誌p.12「早津江川橋」参照)

桁を水平に架け渡した、最も基本的な橋の形状で、主に「単純桁橋」と「連続桁橋」に分けられます。また、主桁の断面形状によって、T桁橋、箱桁橋などに分けることができます。



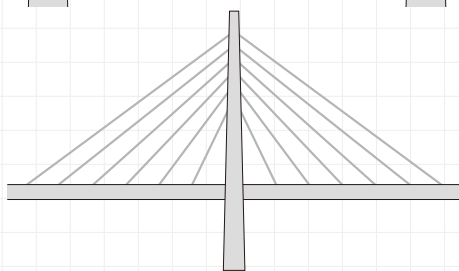
● アーチ橋 (→本誌p.24「留春大橋」参照)

桁橋の主桁にあたる部材を弓状(アーチ状)に反らせて主構とする形の橋です。橋脚の設置が難しい渓谷などの地形条件に適していて、中規模から大規模まで、適用範囲の広い構造形式です。



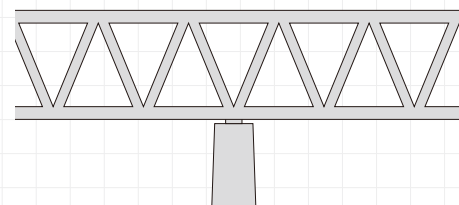
● ラーメン橋 (→本誌p.28「思惟花笑み大橋」参照)

ラーメン橋は、橋を構成している桁と橋脚とを一体化した構造形式を持つものを言います。



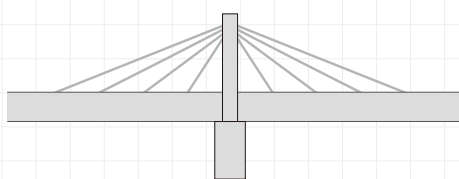
● 斜張橋 (→本誌p.14「岩城橋」参照)

橋脚または橋台に建てた塔から、斜めにケーブルを張って桁を支える橋の形式。ケーブルの張り方や塔の形状、支点条件などによりさらに細かく分類されます。



● トラス橋 (→本誌p.1「志津見大橋」参照)

棒状の部材を三角形に組み立てたものをトラスと呼びます。このトラスを、桁橋の主桁のかわりに用いたのがトラス橋です。



● エクストラドーズド橋

塔は斜張橋よりも比較的低く、斜材より主桁の方が鉛直荷重を担っており、より桁橋に近い構造の橋です。ケーブルが主桁の断面外(塔の上側)に偏って見えるため、大偏心外ケーブル橋とも呼ばれます。